

# 但馬管内の景気動向調査

2017年1～3月期実績・2017年4～6月期見通し

【特別調査 人手不足下における中小企業の人材活用策について】

## 調査の概要

1. 回答数：349（前回：436）
2. 分析方法：ディフュージョン・インデックス（D.I.）  
景気の各項目事項について、良いと感じている企業の割合から悪いと感じている企業の割合を引いたもの。

# 1. 概況（回答数349）

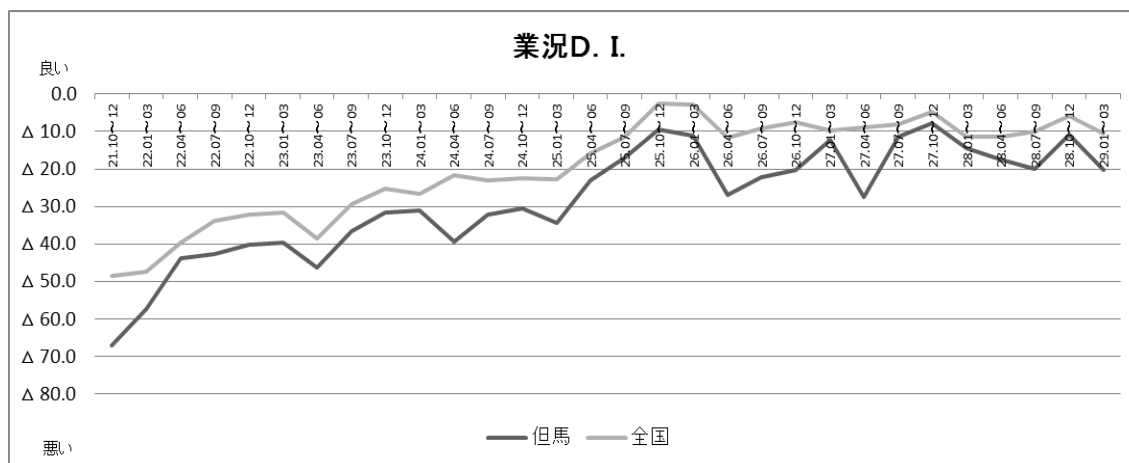
業況D.I.は、△20.2となった。人手過不足D.I.が△21.4、資金繰りD.I.が△22.1、借入金の難易度D.I.が△9.1と悪化している。4月～6月の予想業況D.I.も△23.0となっており今後も低調な状態が続くと思われる。（但し、不動産業については天気図からみても分かるように4～6月は改善される見通しである。）

全体	2017年1～3月実績	前四半期比	2017年4～6月期予想
業況D.I.	△ 20.2	△ 9.4	△ 23.0
前年同期比売上額D.I.	△ 10.7	△ 0.5	-
前年同期比収益D.I.	△ 13.0	△ 1.9	-
売上額D.I.	△ 17.2	△ 24.4	△ 12.2
収益D.I.	△ 17.5	△ 21.4	△ 18.2
資金繰りD.I.	△ 22.1	△ 3.4	△ 19.8
借入金の難易度D.I.	△ 9.1	△ 0.9	-
前期比残業時間D.I.	0.6	△ 3.6	△ 5.8
人手過不足D.I.	△ 21.4	5.3	△ 17.3

業種名 \ 時期	2016年 10～12月	2017年 1～3月	2017年 4～6月(見通し)
総合			
製造業			
建設業			
卸売業			
小売業			
不動産業			
サービス業			

（この天気図は、過去1年の景気指標を総合的に判断して作成したものです。）

好調 ← → 低調



## 2. 製造業（回答数 79）

前回(10月～12月)の調査で業況 D.I.が15.2ポイント上昇したのをはじめ、製造業においては改善の兆しをみせており、今回も業況 D.I.が7.8、売上額 D.I.が1.3、収益 D.I.が3.8ポイント上昇している。

しかし、4月～6月期予想業況 D.I.は△18.4と悪化の見通しである。

製造業	2017年1～3月期実績	前四半期比	2017年4～6月期予想
業況D. I.	7.8	2.3	△ 18.4
前年同期比売上額D. I.	6.3	11.8	-
前年同期比収益D. I.	△ 5.1	△ 2.3	-
売上額D. I.	1.3	△ 24.8	△ 10.3
受注残D. I.	△ 1.3	△ 16.3	△ 12.8
収益D. I.	3.8	△ 20.9	△ 19.0
販売価格D. I.	2.6	△ 8.4	△ 11.5
原材料価格D. I.	27.8	△ 3.7	10.3
原材料在庫D. I.	11.4	10.0	5.2
資金繰りD. I.	△ 2.5	△ 5.3	△ 15.2
借入金の難易度D. I.	5.1	△ 5.8	-
前期比残業時間D. I.	10.1	△ 2.4	0.0
人手過不足D. I.	△ 33.3	1.4	△ 26.6
現在の設備D. I.	△ 24.1	0.6	-
設備投資D. I.	40.5	10.4	-
来期設備投資D. I.	39.2	3.6	-

## 3. 建設業（回答数 77）

業況 D.I.は△31.2となった。資金繰り D.I.が△31.2であることや人手過不足 D.I.が△14.5であることが景況感の悪化の要因であると思われる。前四半期比で25.7ポイントの悪化。

業況 D.I.の4月～6月期の予想は△31.2と悪化の見通し。これは、受注残 D.I.、施工高 D.I.、収益 D.I.、の大幅な悪化が見込まれるためだと思われる。

建設業	2017年1～3月期実績	前四半期比	2017年4～6月期予想
業況D. I.	△ 31.2	△ 25.7	△ 31.2
前年同期比売上額D. I.	△ 15.8	△ 9.2	-
前年同期比収益D. I.	△ 20.8	△ 10.9	-
売上額D. I.	△ 31.2	△ 34.5	△ 17.1
受注残D. I.	△ 26.7	△ 20.0	△ 17.1
施工高D. I.	△ 23.4	△ 27.8	△ 19.7
収益D. I.	△ 28.6	△ 26.3	△ 25.0
請負価格D. I.	△ 14.3	△ 0.8	△ 17.1
材料価格D. I.	13.2	△ 2.6	9.2
在庫D. I.	△ 2.6	△ 3.7	△ 2.7
資金繰りD. I.	△ 31.2	△ 1.5	△ 18.7
借入金の難易度D. I.	△ 11.0	4.0	-
前期比残業時間D. I.	3.9	5.0	△ 10.8
人手過不足D. I.	△ 14.5	16.3	△ 11.0
現在の設備D. I.	△ 17.1	△ 5.9	-
設備投資D. I.	28.6	△ 5.5	-
来期設備投資D. I.	33.8	1.9	-

## 4. 卸売業（回答数 37）

業況 D.I.は△41.7と大幅に低下した。資金繰り D.I.が△35.1であることや前四半期比売上額 D.I.も△42.4となっており低調なままである。

前四半期比で27.7ポイントの悪化となった。

業況 D.I.の4月～6月期の予想は△38.9と1月～3月期実績と比較して若干改善の見通し。これは、売上額 D.I.及び収益 D.I.の改善が見込まれるためだと思われる。

卸売業	2017年1～3月期実績	前四半期比	2017年4～6月期予想
業況D. I.	△ 41.7	△ 27.7	△ 38.9
前年同期比売上額D. I.	△ 43.2	△ 27.3	-
前年同期比収益D. I.	△ 29.7	△ 20.6	-
前年同期比販売価格D. I.	0.0	6.8	-
売上額D. I.	△ 37.8	△ 42.4	△ 13.5
収益D. I.	△ 37.8	△ 42.4	△ 13.5
販売価格D. I.	2.7	0.4	△ 2.7
仕入価格D. I.	10.8	△ 7.4	13.5
在庫D. I.	10.8	△ 2.8	10.8
資金繰りD. I.	△ 35.1	△ 19.2	△ 16.2
借入金の難易度D. I.	△ 10.8	△ 6.3	-
前期比残業時間D. I.	△ 10.8	△ 3.8	△ 10.8
人手過不足D. I.	△ 22.2	△ 8.3	△ 5.4
現在の設備D. I.	5.4	12.2	-
設備投資D. I.	29.7	△ 2.1	-
来期設備投資D. I.	37.8	3.7	-

## 5. 小売業（回答数54）

業況 D.I.は△42.6となった。資金繰り D.I.の△42.6 や前年同期比収益 D.I.の△29.6 など全体的な景況感は低調なままである。前四半期比で 8.3 ポイントの悪化となった。

業況 D.I.の 4 月～6 月期の予想は△22.2 と 1 月～3 月期実績と比較して改善の見通し。これは、仕入価格 D.I.の低下や売上額 D.I.の改善が見込まれるためだと思われる。

小売業	2017年1～3月期実績	前四半期比	2017年4～6月期予想
業況D.I.	△ 42.6	△ 8.3	△ 22.2
前年同期比売上額D.I.	△ 25.9	7.4	-
前年同期比収益D.I.	△ 29.6	5.2	-
前年同期比販売価格D.I.	3.7	9.8	-
売上額D.I.	△ 22.2	△ 17.7	△ 18.9
収益D.I.	△ 29.6	△ 23.7	△ 22.6
販売価格D.I.	3.7	5.2	0.0
仕入価格D.I.	14.8	1.4	9.4
在庫D.I.	3.7	6.7	9.4
資金繰りD.I.	△ 42.6	△ 3.2	△ 28.3
借入金の難易度D.I.	△ 14.8	△ 1.4	-
前期比残業時間D.I.	△ 13.0	△ 14.5	△ 11.3
人手過不足D.I.	△ 14.8	1.6	△ 11.3
現在の設備D.I.	△ 9.4	5.5	-
設備投資D.I.	18.5	△ 5.4	-
来期設備投資D.I.	20.4	△ 2.0	-

## 6. 不動産業（回答数7）

業況 D.I.は 14.3 と上昇した。売上額 D.I.が 14.3 と前四半期から約 2 倍、収益 D.I.も上昇しており景況感が好調である。前四半期比で 34.3 ポイントの改善となった。

業況 D.I.の 4 月～6 月期の予想は 50.0 と大幅に改善の見通し。

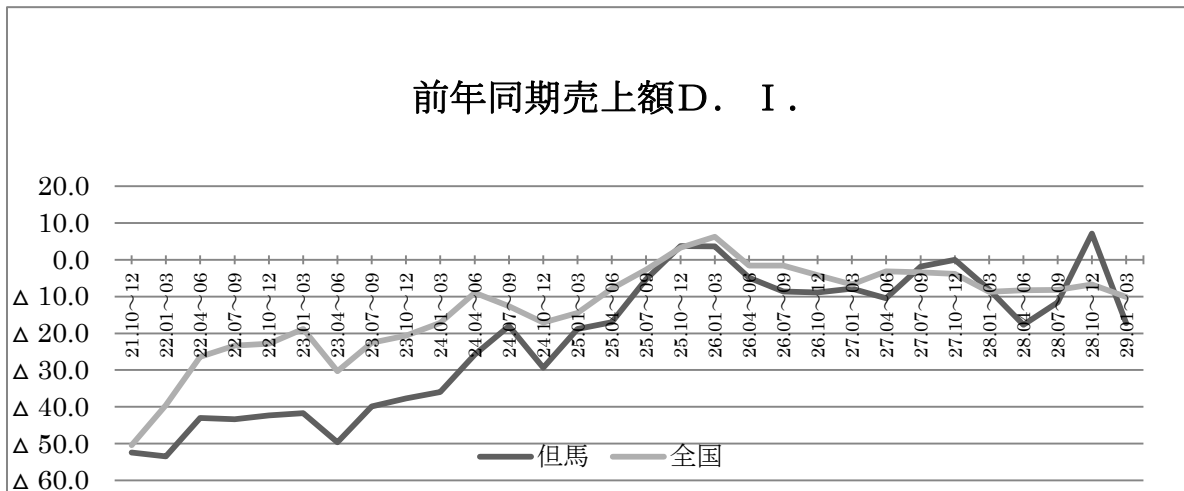
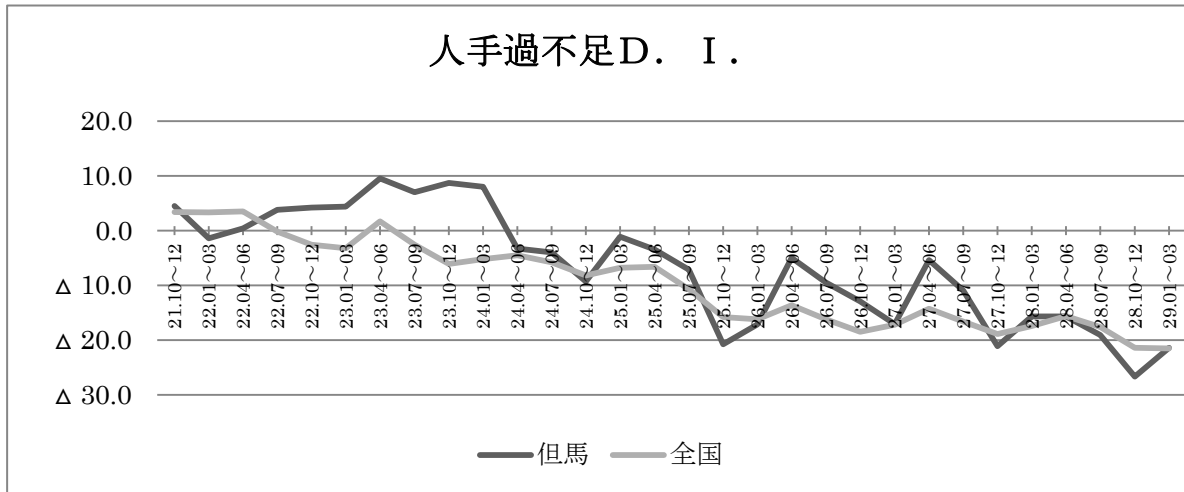
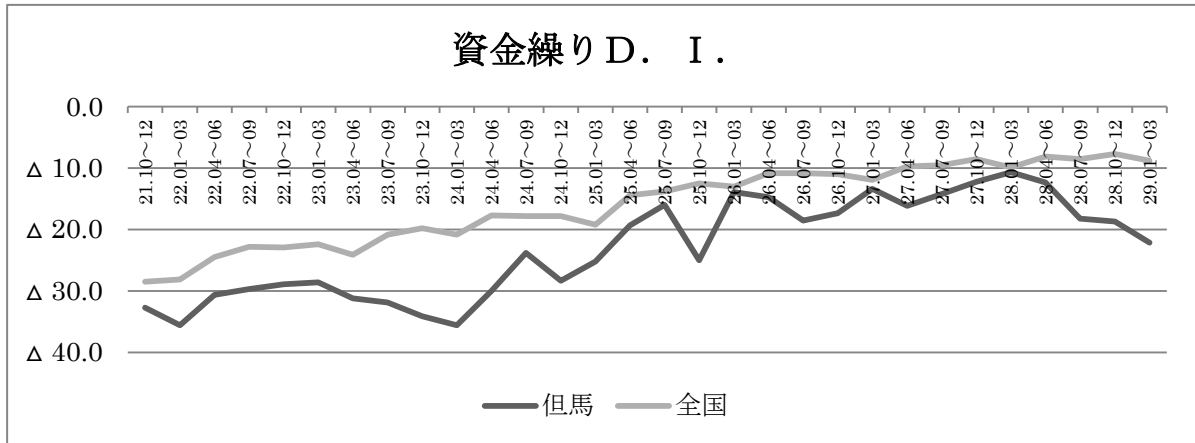
不動産業	2017年1～3月期実績	前四半期比	2017年4～6月期予想
業況D.I.	14.3	34.3	50.0
前年同期比売上額D.I.	0.0	0.0	-
前年同期比収益D.I.	16.7	23.3	-
売上額D.I.	14.3	7.6	33.3
収益D.I.	14.3	14.3	33.3
販売価格D.I.	△ 14.3	7.1	△ 16.7
仕入価格D.I.	0.0	14.3	0.0
在庫D.I.	16.7	24.4	0.0
資金繰りD.I.	42.9	49.5	50.0
借入金の難易度D.I.	0.0	20.0	-
前期比残業時間D.I.	14.3	0.0	16.7
人手過不足D.I.	△ 14.3	7.1	△ 16.7

## 7. サービス業（回答数95）

業況 D.I.は△15.8 であった。材料価格 D.I.が 20.2 と上昇したことや、資金繰り D.I.が△19.1 となったことから景況感は低調なままである。

業況 D.I.の 4 月～6 月期の予想は△19.1 と悪化の見通し。

サービス業	2017年1～3月期実績	前四半期比	2017年4～6月期予想
業況D.I.	△ 15.8	△ 6.1	△ 19.1
前年同期比売上額D.I.	0.0	3.4	-
前年同期比収益D.I.	1.1	7.2	-
売上額D.I.	△ 12.8	△ 18.9	△ 8.5
収益D.I.	△ 13.7	△ 15.7	△ 14.7
料金価格D.I.	3.2	△ 7.3	△ 16.8
材料価格D.I.	20.2	△ 5.7	△ 2.1
資金繰りD.I.	△ 19.1	△ 3.9	△ 25.5
借入金の難易度D.I.	△ 16.3	△ 5.0	-
前期比残業時間D.I.	1.1	△ 5.8	△ 3.2
人手過不足D.I.	△ 21.1	8.1	△ 22.3
現在の設備D.I.	△ 14.9	4.4	-
設備投資D.I.	28.4	△ 5.1	-
来期設備投資D.I.	28.4	3.8	-

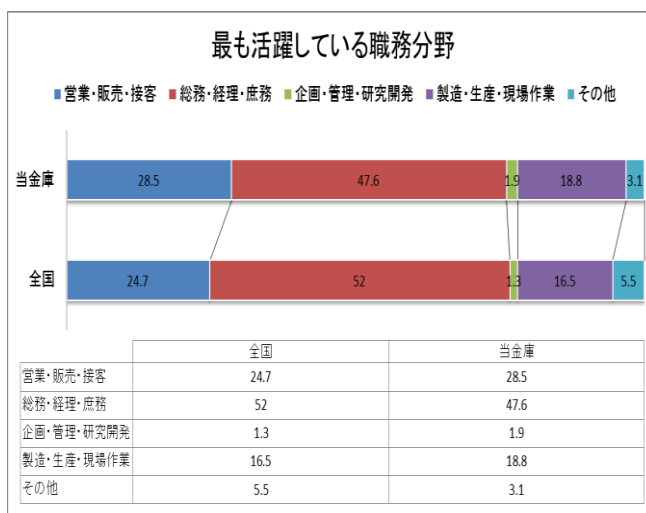
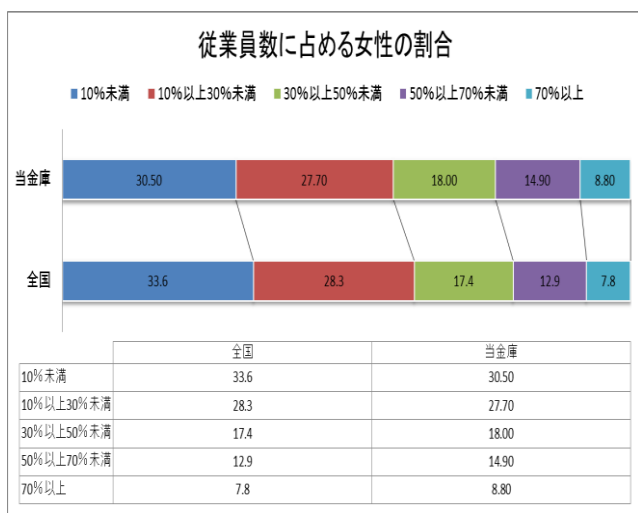


## 《特別調査》 「人手不足下における中小企業の人材活用策について」

### 【問1】 従業員数に占める女性の割合と最も活躍している職務分野

従業員数に占める女性の割合については、「10%未満」（30.5%）が最も多く、次いで「10%以上 30%未満」（27.7%）の順となっている。

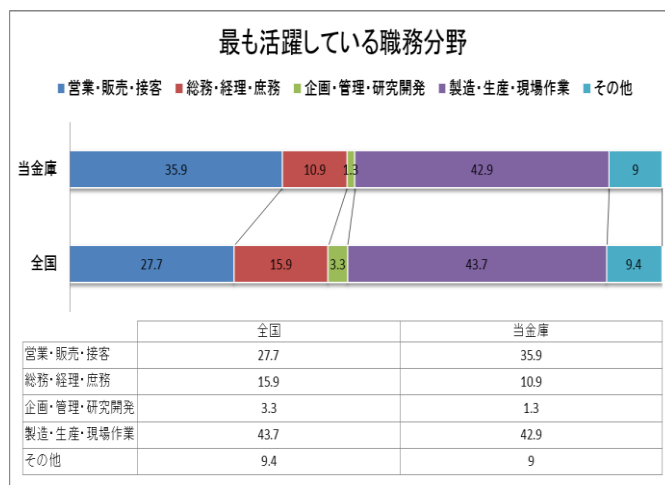
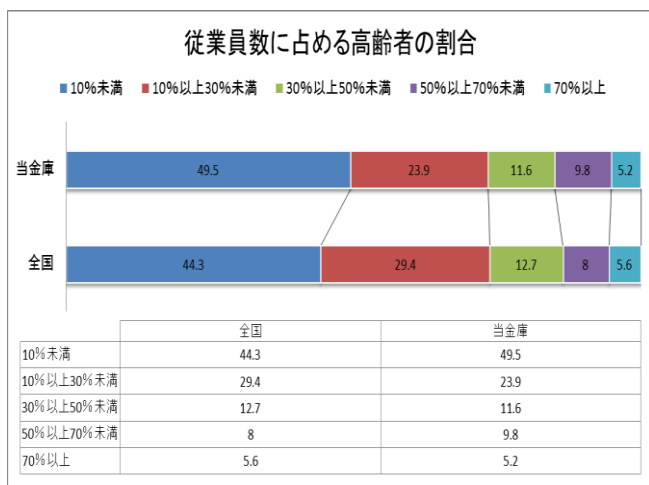
女性が最も活躍している職種の割合は、「総務・経理・庶務」（47.6%）、「営業・販売・接客」（28.5%）、「製造・生産・現場作業」（18.8%）の順となっている。



### 【問2】 従業員数に占める高齢者の割合と最も活躍している職務分野

従業員数に占める高齢者の割合については、「10%未満」（49.5%）が最も多く、次いで「10%以上 30%未満」（23.9%）の順となっている。

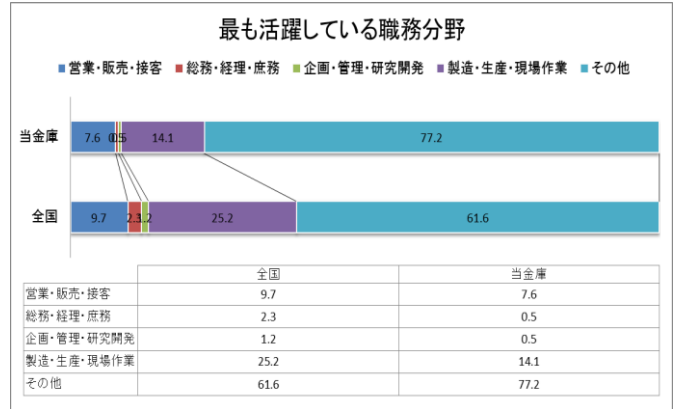
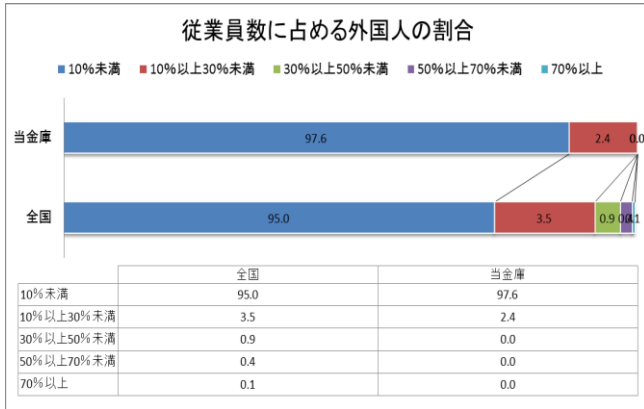
高齢者が最も活躍している職種の割合は、「製造・生産・現場作業」（42.9%）、「営業・販売・接客」（35.9%）、「総務・経理・庶務」（10.9%）の順となっている。



### 【問3】従業員数に占める外国人の割合と最も活躍している職務分野

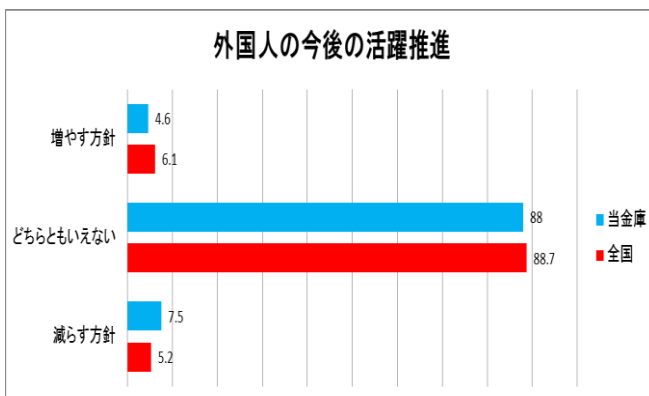
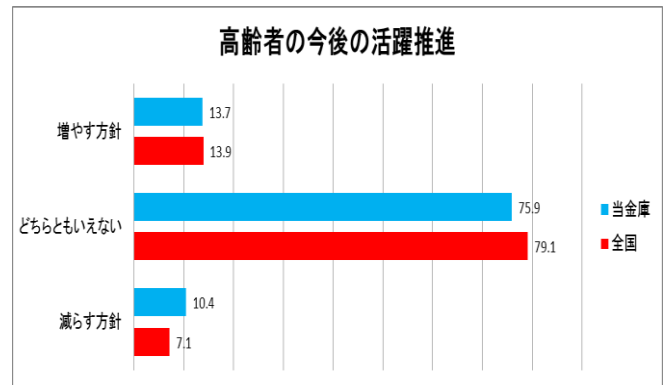
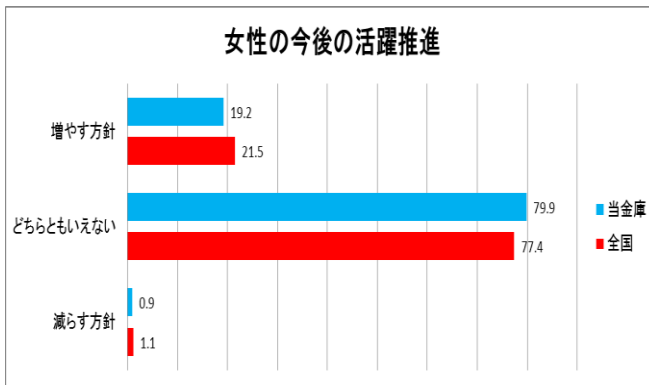
従業員数に占める外国人の割合については、「10%未満」（97.6%）が最も多く、次いで「10%以上 30%未満」（2.4%）の順となっている。

外国人が最も活躍している職種割合は、「その他」（77.2%）、「製造・生産・現場作業」（14.1%）、「営業・販売・接客」（7.6%）の順となっている。



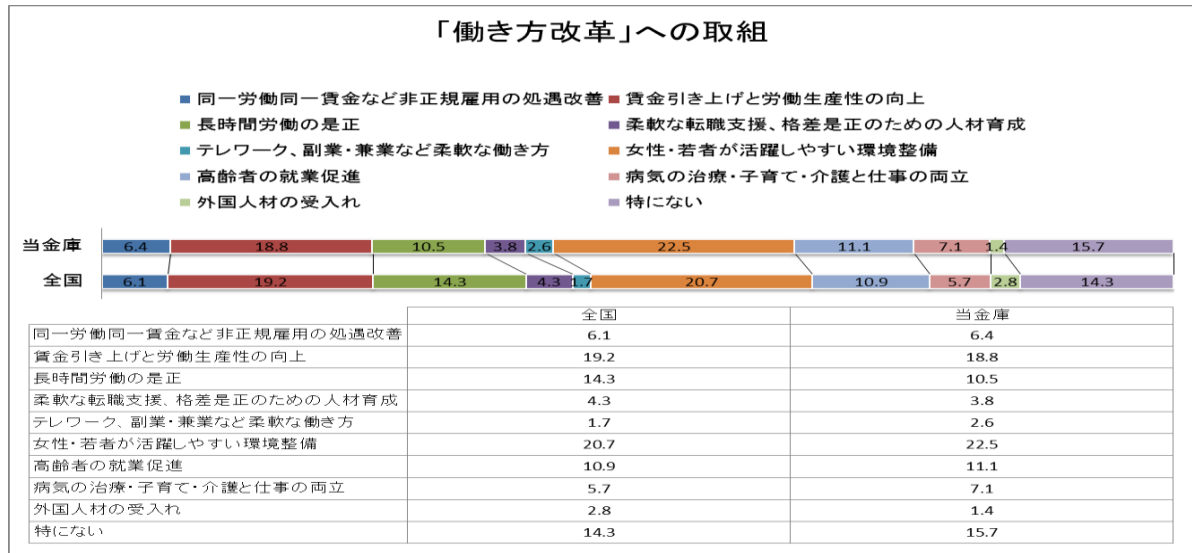
### 【問4】女性・高齢者・外国人の今後の活躍推進

女性、高齢者、外国人の今後の活躍推進については、「どちらともいえない」と回答する企業が多い中で、高齢者と外国人については「減らす方針」と回答する企業が全国の割合に比べて上回っている。



## 【問5】 今後注力する施策

「働き方改革」への取組における今後注力する施策については、「女性・若者が活躍しやすい環境整備」（22.5%）を挙げる企業が最も多く、次いで「賃金引き上げと労働生産性の向上」（18.8%）、「特にない」（15.7%）、「高齢者の就業促進」（11.1%）の順となっている。



以上

### 参考文献

・ 信金中央金庫 地域・中小企業研究所 「第167回全国中小企業景気動向調査」